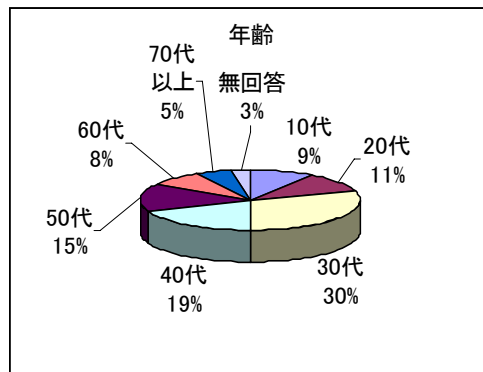


# アンケート まとめ

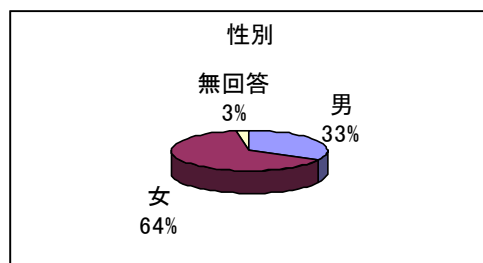
平成 18 年 9 月 16 日 (土)

総回答数 73 枚

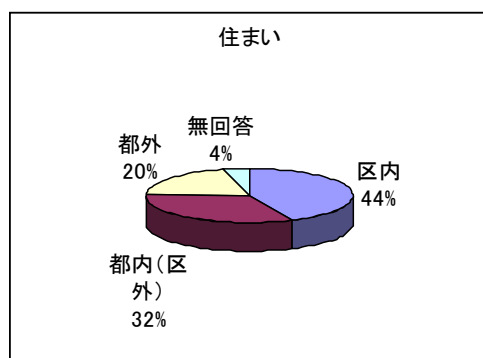
ご年齢		
10代		7名
20代		8名
30代		22名
40代		14名
50代		11名
60代		6名
70代		4名
無回答		1名



性別		
男		24名
女		47名
無回答		2名



お住まい		
区内		32名
都内(区外)		24名
都外		15名
無回答		3名



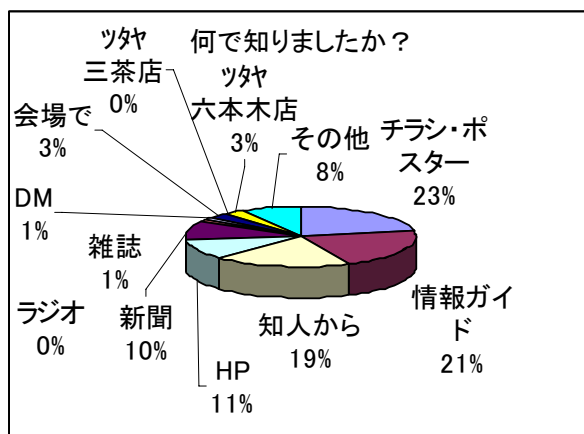
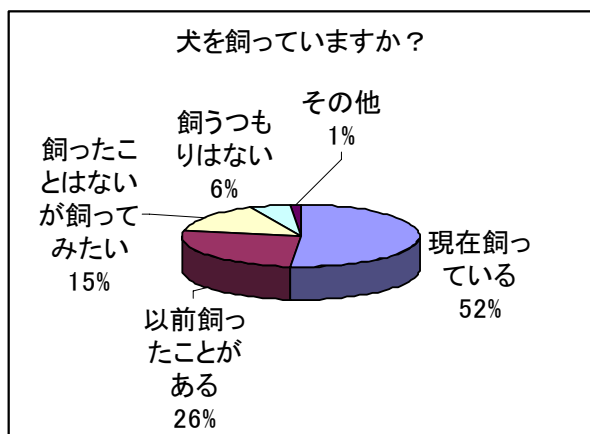
## 1. あなたは犬を飼っていますか。

①現在飼っている	37名
②以前飼ったことがある	19名
③飼ったことはないが飼ってみたい	11名
④飼うつもりはない	4名
⑤その他(現在猫がいるから)	1名

## 2. このトークショーを何で知りましたか。

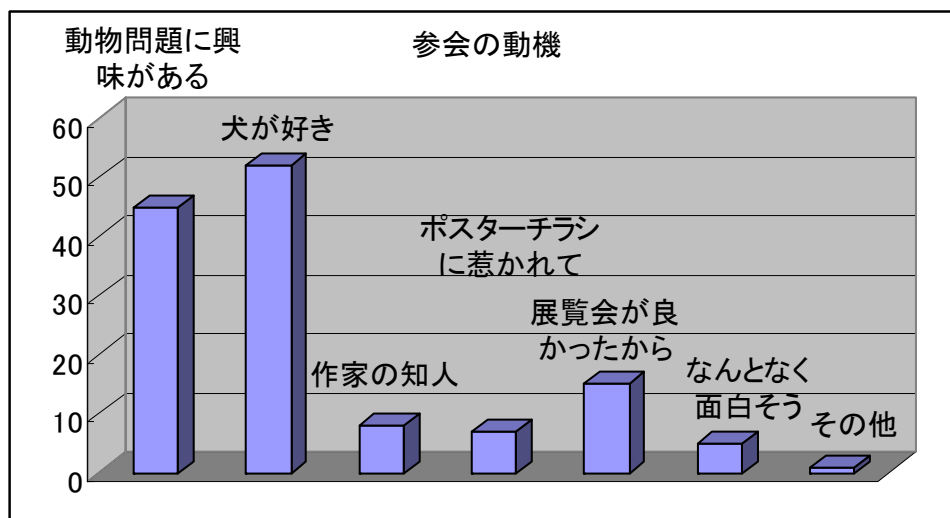
①チラシ・ポスターを見て	16名
②文化生活スポーツ情報ガイド(区のおしらせ)を見て	15名
③知人に聞いて	14名
④ホームページを見て	8名
⑤新聞で(新聞名: 読売新聞、朝日新聞)	7名

- ⑥雑誌で（雑誌名： ドッグファン ） 1名
- ⑦ラジオを聞いて（局名・番組名： ） 0名
- ⑧ダイレクトメール・招待状で 1名
- ⑨写真展会場で 2名
- ⑩TSUTAYA 三軒茶屋店の特設コーナーを見て 0名
- ⑪TSUTAYA 六本木店の特設コーナーを見て 2名
- ⑫その他（女房に誘われて、仕事で、インターネット、  
代田ボラティアビューローのセレクトドッグカフェ「ロソ」にて） 6名



### 3. ご参会の動機についてお聞かせください。 ※複数回答可

- ①動物問題に興味がある 45名
- ②犬が好き 52名
- ③作家の知人である 8名
- ④ポスターやチラシのデザインに惹かれて 7名
- ⑤展覧会が良かったから 15名
- ⑥なんとなく面白そうだから 5名
- ⑦その他（実際に行動し、犬にとって優しい社会をつくりたいから） 1名



## 4. このトークショーの評価をお聞かせください。

### ①非常に良かった

31名

感想・殺処分される犬達の現状、ペットショップの現状など、実際に取材された生きた情報に触れ、命の大切さ、重さを痛切に感じました。飼主一人一人の考えが本当に大切な事だと思います。もっとこのような場が増えて人間の動物に対する意識が変わることが出来ると良いと感じます。

- ・ペットショップの流通のしくみの説明、日本の一過性のブーム傾向の分析等、非常に興味深かったです。動物保護法の現状も理解できて勉強になりました。
- ・いろいろな軋轢があるため、初めから核心を話すのは難しいだろう。人間自身のエゴ！買う、飼う、売る、殺す、すべて人間の都合だ！法をつくったのも人。
- ・写真展だけでは分からないことが聞けたのでとても良かったです。
- ・写真展以上に今のわんこが置かれている社会を知ることができて、ただかわいそうとうだけではなく、目の前の出切ることから気持ちを少しでも変えていきたいと思いました。なかなかこのテーマでの機会がないので、すごく良かったです。お二人の本、読んでみようと思います。
- ・処分の問題は殺し方に目が行きがちだけど、日本人のライフスタイルを考えていく必要がある。ペットショップやブリーダーが少し考えてくれれば・・・。“普通”に生活をしている10家族を取材して、センターに居た犬たちにもこの可能性があると感じた服部さんの話、残りました。
- ・本日のトークショーは楽しみにしていたのに、用事があり少ししか聞けず残念です。でもとても有意義でした。
- ・今、家にいる猫は子猫のときに我が家の玄関で鳴いていました。現在14歳位です。はじめて猫を飼い、家族となり、癒してくれました。今日のトークショーに参加して色々勉強になり、今度は子犬の預かりボランティアをしてみたいなと思いました。
- ・「殺処分」ということが、どのようなプロセスで行なわれているのか、生々しく衝撃的なお話でしたが、知って良かったです。“今の日本社会の犬の現状をまず知る事から”という渡辺さんの言葉が印象的でした。
- ・とてもたくさんのお話が知れてよかった。私も少しでも力になりたいと思った。
- ・3人のそれぞれのお話が奥の深い貴重な事が聞けて考えさせられて良かった。
- ・全体的に殺処分のことや、現在のしつけ、犬への接し方の知識があまりない方々に有効なトークショーだと感じた。後半で出た、ペットショップの現実、犬猫市場の実態、を話題にあげてくれたことはとても良かった。(無意識に動物虐待に加担しているかもしれないことを気付かせてくれる)
- ・写真展の内容により踏み込んだ説明が聞けて、多角的な見方を具体的に感じる事ができた。
- ・センターの人達に苦情を言うのはおかどちがいだと思う。飼主一人一人がリードをはなさないというのは、本当にそうだと思う。日本人の心の貧しさが感じられた。ペットショップで商品として売られている姿は悲しい。簡単に捨ててしまう人の意識、変えて欲しい。何度見てもセンターの写真は胸がつまります。日本人の民度の低さを実感しました。
- ・深刻な問題なのに、気負わない、でも現実的なトークがよかった。
- ・真子さんの「捨て犬を救う町」が私の原点です。今日、初めてお会いできて感激です。服部さん、小山さんのお話もとてもためになりました。このプロジェクトが、世田谷保健所の主催ということが犬猫の未来が明るいと感じ頼もしいです。がんばりましょう！
- ・今日は足を運ばせていただきとても良かったです。私も何年か前までは単なる動物好き、犬好きでした。けれど色々な情報を知り始め、真子さんの本達に出会い、知ってしまったからには動かなければ、と思うようになりました。現在ALIVEの

事務局で働かせていただいておりますが、日本中、世界中、不幸な動物であふれています。今回「犬」がテーマで、とてもかわいらしい写真がたくさんあって思わず微笑んでしまうことも何度もありました。犬は本当に正直で素直でまっすぐで、逆に人間が見習ったりお手本にしたりするべき素晴らしい生物です。そんな彼らが、人間の都合だけで人間の言葉を話せない、抗議できないことをよいことに「処分」などされるのはどういう方向から考えてもやはりあってはならないことと思います。人間にそんな権利はないはずで、殺処分を切実に願います。できることを一人一人がやっていくことが大切だと思います。

- ・犬の流通のことは知っていたが、トークショーの中で話してくださったことは有意義であると思った。家にも保健所から愛護団体の方が救出し、そこから譲渡されたコーギーがいるため、昨年に引き続き来ました。この犬の笑顔を見るたび、殺処分されずに本当によかったと思います。
- ・実際に体験された人の話を聞くことができるとても良かったです。もっともっといろいろな人に聞いてほしいです。特に子ども達には知ってほしいことです。
- ・犬を飼うとたくさんの喜びと悲しみがあると思うのですが、一緒に生きる事の素晴らしさをもっと飼主さんに知ってもらいたいです。そして自覚を持ってほしいと思うのです。犬も人間も同じ赤い血の流れる生物なのです。何の違いもないのに「嫌だから」とか「飼えない」からと簡単に考えて捨ててほしくないです。捨てる＝殺されるのですから・・・
- ・3年前にゴールドンレトリバーをなくしました。写真の子とてもよく似ていて涙が出て来ました。次のシーンでは、空のオリだけ。こんな悲劇もういらぬですね。残念です。
- ・ドリームBOXの話は、考えさせられ涙が出ました。うちは子ども達が飼っていいか？と言ったとき、里親として飼うと言い、うちにきて良かったね・・・といつも犬を見て思っています。死ぬまで大事にかわいがっていこうと育て育てられたと思いました。
- ・前半の内容と後半でガラリと変わったところがまた新鮮でした（どちらもとても良かったです）。今回のこのストレートで重い内容について、服部さんが大変気を遣い、言葉を選びながらとはいえ、必要な部分ではズバリという進め方に引き込まれました。また前半、後半を通してトータルで全体像が見えてきたものがあり、充実していました。写真家の服部さん、作家の渡辺真子さん、また詩人の小山さん、それぞれのスタンス、考え方がなんとなく分かって直前に見た写真展の感動と相俟って大変印象深いイベントでした。
- ・犬との共生について考えさせられた。単に犬が好きだとかいうだけでは飼うことはできない。生涯をともにする覚悟と責任をもって、そのうえで、愛情を失わず、暮らしていくことが必要だと思う。

## ②良かった

30名

- ・ドリームBOXの内側のカベはとても見るに耐えない、生々しい傷跡があるにちがいない。炭酸ガスの死はとても安楽死に程遠く、苦しいものだ。人間が、我々がそうあったらどうなのかをカメラマンさんにも傍観者としてではなく、より深く知っていただきたい。そして具体的に現実に犬達に手をかしてあげて欲しい。
- ・捨て犬の末路としてこのような実態があるのは知っていたが、捨てる側、処分する側それぞれ事情があるのは大変難しい問題であると実感した。
- ・問題は単純でありつつ、背景は複雑だということ。処分するという仕事を引き受けている方がいるということ、それについていろんな評価があるということ。引き取られて幸せになる犬もいるということ。そのような犬との出会いについても考えるということ・・・その他様々、まずは「知る」ということが、感じ、考え、行動することの始まりなのだと教えていただくことができました。
- ・まだまだ知らなかったこともたくさん知ることができて良かったです。処分数が東

京が一番少ないということ、知らなかったのでビックリしました。東京が一番多いと思っていました。

- ・日常でお話をする事が仕事ではないのに、取材されたこと、活動の事、それについて感じたことなどがたくさん聞いて足を運んだ甲斐がありました。今後この様なトークショーを再び開かれるのであれば、スライドとトークのコンビネーションがもっと良くなればと思います。
- ・写真撮影に直接関わった服部さんの言葉は重かったです。心の中に深く受け止めました。
- ・途中で帰りますが、良いトークショーでした。ADOPTION重要なテーマです。
- ・自分なりに勉強（本・テレビ）している点も少しはあると思っておりましたが、写真、お話を聞いて大変参考になりました。
- ・今まである程度の知識があったと思っていましたが、今日のお話を聞き、大変参考になりました。
- ・犬を飼うことがどれだけ責任が重いかあらためて痛感しました。犬の観察を所持していれば安心というのも、リードを離してしまえばそこから先を考えると非常に不安です。
- ・なかなか知ることができない現実を知ることができた。要は飼主の問題。安直に動物を飼うことを規制できないのかと思った。
- ・日の当たらない殺処分の現状を一般の方が知る良い機会だと思います。いろいろな見せ方があるとは思いますが、どんな写真であろうとも、たくさんのドラマがあるので、こういうトークは必要だと感じています。（私自身、イヤと言われたパネル展をしています）。鑑札をつけるということが、殺処分を減らす第一歩だということを感じましたし、日々気付かないこともあるのだなと、このトークを聞いて思いました。（犬に関してのみです）。ペットショップのあり方を話していただけたのは、非常に良かったです。常々思っており、今後も又活動をしていく上で、考えるところ大でした。猫のTNR活動と、譲渡を常にしております。この問題は犬に限ったことではなく、猫も同じです。
- ・うちの犬もセンターの人の判断がなかったら、そのまま（やせて、おびえたまま）処分されていたかと思うと、聞くのが辛かった。わかってはいるけど、つらいですね。
- ・服部さん、渡辺さんのワンコ、猫たちへの優しい思いが聴けてとても良かったです。とくに服部さんの話はもっと長く聞いていたいと思いました。
- ・昨年よりテーマ、問題点をしっかりとコメントされ、出席者に理解しやすかったと思う。色々な角度では正しい事象（しかたない）でも全体的には納得できないことが多いですね。本当に正しきは全ての人の心にあるのか？
- ・いろいろなお話が聞いて参考になりました。
- ・服部さんの動物愛護センターでのお話、とりわけドリームボックスの話ではとても胸がつまる思いでした。なんとなく、ヒトラーが行なったユダヤ人虐殺のアウシュビッツを思い出しました。私もセンターの中に特別な許可を頂き、はいったことがあります。オリの中に入っている犬たちの目を私はまともに見ることができませんでした。悲しいことです。渡辺さんがお話されていたサンフランシスコでの素晴らしいシェルターと日本の劣悪な環境のシェルターの差。日本ももっと犬と人間が幸せに共存できる国になればいいなと思います。
- ・法律、飼主、ブリーダー、ペットショップなど動物に関わる全ての物がもう一度よりより方法を考え、動物と人にとってよりよい環境づくりができればよいと思いました。いづれにせよ、動物には罪はなく、すべての人の考え、行動次第だと思います。
- ・実際に取材している方の言葉には重みがありました。センターの職員さんの立場なども配慮すべきという指摘はとても納得しました。鑑札のお話は身近にできること、

もし今度飼うことがあれば必ずつけようと思いました。また、服部さんの距離のとり方も参考になります。私もいつかこのテーマを表現するときには、お手本にしたいと思いました。ある程のクールさがあるからこそ伝えることがより明確になるということを肝に銘じました。

- ・犬について分かりました。
- ・服部さん、渡辺さん、小山さんをはじめ、スタッフの方の想いや情熱が伝わりました。ただ、スライドを使うタイミングなどに工夫が欲しかった。(少し単調だったかも)
- ・サンフランシスコのシェルター、都の行政について、知らなかったことを知ることができてよかったです。ただ、前半の話し方で、「あの一」や「え一」が聞き苦しく感じました。以前「新潮45」という雑誌の保健所の犬猫たちについての記事で衝撃を受けましたが、実際に写真で見ると、更にショックでした。動物を飼うとことに、多くの方がもっと意識的であることが必要なのだなぁと思いました。

③普通

3名

- ・人間のおごりから発生した問題ではないか。
- ・今でも只の犬がたくさんいる話を伺い、かわいそうな犬を少なくするように努力していかなければと思った。犬も飼われる家によって幸、不幸に分かれる。散歩にも連れて行ってもらえず、ほえるのが仕事の犬。愛情を持って育てて欲しい。不幸な犬を出さないよう頑張してほしい。

④悪かった

0名

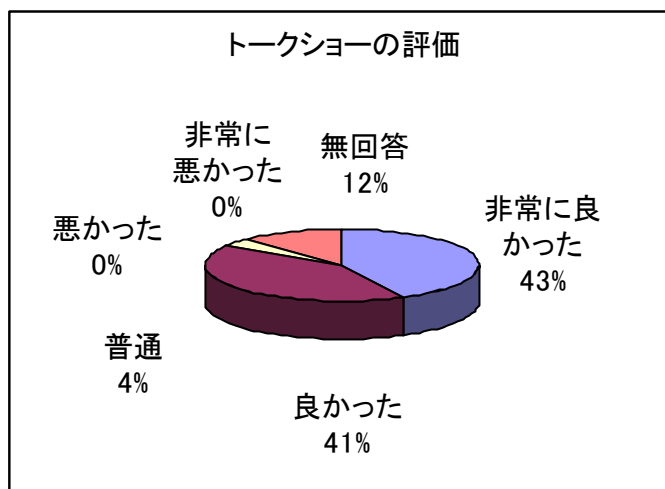
⑤非常に悪かった

0名

⑥無回答

9名

- ・家族の一員として認知された存在ではない。法律で縛る余地はないだろう。それだけ、人間には善悪併せ持っているということ。
- ・普通には聞くことが出来ないことが、聞かれたことがすごく重いことです。私は16年18年とともに生活して見送ったものです。たくさんの愛情をもらったものとして、今、私にできることが犬猫のボランティアに参加していることです。これからのボランティアに力が入ると思います。
- ・時間の都合で途中退場させていただきました。すみません。
- ・犬の学習理論に基づいたしつけについては、興味深かったと思います。第一部の話が少し長かったように感じられたが、現実の話聞いたのはよかったです。



5. その他、ご意見・ご感想などありましたらご自由にお書き下さい。

- ・今回のトークショーで自分自身、出切る範囲で活動していこうと思いました。

- ・渡辺さんは著書を読んでいて、バリバリの市民運動系の女性をイメージしていたのですが、すごくきれいな都会的な方で、びっくりしました。でも冷静に現状認識されてて感心しました。服部さんはちょっと話が長い……。1回ごとのコメントもう少し短い方が二者のクロストークとしては良いかも。犬だけでなく猫も撮ってほしいです。
- ・今まで接した犬（飼った犬）7匹、すべて雑種。もらった犬、迷い込んできた犬、野良だった犬。犬はすごいね、人間の言葉を理解できるようになる。でも僕は犬の言葉は分からない。話せるようになったらおもしろいなあ。楽しいなあ。「ただのいぬ展」は問題提起となったはず。「ドリームBOX」について（保健所を非難している訳ではありません）かつて人間は自体を処分してきた。それは戦争として現在も続いている訳で……。そんな人間のやることだから……。人間はその存在自体に絶望すべきだ。但し一分の希望を残して。未来に向けて自分は何ができるか？考えていこう。
- ・去年のただのいぬ展に来てから犬に関わる仕事を通して私なりにできる限り……。殺処分される犬たちについて何かできないかと思っています。そして、そんな思いを持っている仲間達がたくさんいます。自分なりにできる限り……。キーワードに何か私たちにもできることはないものでしょうか。服部さん、小山さんのかかわり方にとっても興味があります。相談に乗ってください。
- ・殺処分の犬がいなくなるといいですね。犬を飼っているのとでも(殺処分)悲しいです。私たちには何ができるのか、今後も考えてゆきたいです。
- ・ありがとうございました。一人一人良く考えて、行動したいと思います。
- ・私も日本の犬猫殺処分数を減らしたいと願っている者の一人で、今は自身のブログで、この問題を載せています。でも、こういうテーマって「肩に力が入った、又、労力をつぎこむ動物愛護団体のやることでしょ？」って思っている人も多いと思うので、いかに一般のフツーの平均的な日本人に知ってもらうかが勝負だと思っています。主張しすぎると人は引いてしまうので……。そこが自分も苦勞しているところなのですが、「ただのいぬ」プロジェクトはまさに、一般の多くの人々に関心を持ってもらえる可能性を大きく秘めていると思います。プロモーションの仕方というのは重要だと再認識しました。日本中で開催されることを願います。
- ・去年の「ただのいぬ」展は大変な反響があったと聞きました。ぜひ多くの地域で開催されもっと多くの人達の目にふれるといいと思います。また三軒茶屋での開催もずっと続けてほしいです。
- ・ドリームボックス、何てネーミングなんだろう。そこにはどんな夢があるのか？うちにいる“マック”も「ただのいぬ」譲渡団体から子犬のときに貰い受けました。もちろん雑種。でもどこのワンコよりも私には可愛い子です。ペットショップで買わなくてもこんなに素晴らしいワンコがいるのだから、ペットショップで購入するのではなく一匹でも多くの“ただの犬”から飼ってほしい。「コマザワンヌ」とかもてはやされる一方で、お金を出して購入しているのに、捨てられていく犬がいるという矛盾がおかしいと思う。自分のライフスタイルにあった犬を選ぶべき。犬が大きくなったら飼いづらくなるのは当たり前なことなのに。
- ・展覧会の文章の文字があまりにも小さすぎます。詩がとてもいいですねー。
- ・この写真展、トークショーのような活動はとても重要・貴重だと思います。来年もまた是非開催してください。また他の市町村での開催も考えて頂けたらと思います。海外のDOG SHOWも行くくらいの犬好きです。
- ・毎年やっていただきたい。テレビでとりあげて現状を皆に知ってもらいたい。
- ・病院～処分してくださいと持ってきたシーズーの雑種で欠陥、クリクリ廻ってしまうリードにからまる位。でもとてもよい子で（生後4ヶ月くらい）でしたが10年生きました。
- ・人間の都合で捨てられるなんて以前から年間何万頭のワンちゃんが捨てられ処分さ

れているとは聞いていました。なんとむごいことでしょう。誠に残念でなりません。最後まで責任を持って飼ってほしいです。

- ・今回の展示を新聞でも、J-WAVEでも紹介していました。この世田谷区という一つの地域から発信できることは凄いことだと思います。これからもこのような企画をじっくりと続けてください。
- ・リードを離さないことが大切。飼主の心構えによって犬の幸不幸が左右される。人間と犬の絆が重要。などなど良く分かりました。
- ・今回のお話が一時的な興味だけの話にならないように、又たんなる写真の場やPRの場にならないように心からお願いしたいです。実際に犬を現実的に救わねばそれも継続的にしていけないと意味がありません。我々がなくなってからも、そうして実際の活動がなければ、犬は報われません。P. S. カメラマンの写真はとてもよかったです。とても真摯な写真ですね。
- ・犬が好きな人ならば犬が処分される事実は理解できない。許せないという片側だけの見方でなく、実際何がネックとなってこの様なことがおこるのかをもう少し具体的にそして日常生活の中にもみていきたいと思います。いつか0匹になることを望みます。
- ・「犬がかわいい」ということは、色々なところで知る機会はあるけれど、「処分の現状」というのは知りたいと思っていても一般の私たちには知る方法がありません。なので、たとえ暗い写真でも、代表して服部さんにぜひ撮ってきてもらっているところで写真展や本として知らせてほしいです。かわいそうな写真ももちろんですが、かいと君の写真もとてもよかったです。仕事で辛いとき、いつもただのいぬの写真を見てがんばっています。また次回も来ます！！ありがとうございました。
- ・今後もこのプロジェクトの継続をお祈り申し上げます。
- ・ただの犬の写真展を見てその末路の哀れさが身にしみて感じられました。これから飼育される場合は犬の寿命（生存期間）と家族の将来に亘って飼育可能期などを考慮しながら飼育の可否を決める必要性を感じました。
- ・動物を捨てると罰金30万なのに保護センターに持ち込むとタダというのはおかしい。やっている行為は同じではないのかと思う。飼主の意識と責任をもっと問うべきと思う。
- ・会場が寒く続きを聞くことができません、ごめんなさい。残念です。
- ・うちの横浜、青葉区はとても犬の多い地域だそうです。ぜひ、学校などでもポスターをはったりできたらいいかな・・・と思いました。
- ・服部さん、渡辺さん、小山さんの優しい人柄を感じられて幸せな気持ちになりました。
- ・来年もやってほしいです。
- ・やはり人間が悪いと思います。特になんで日本人は流行りものに弱いのかと思います。犬ではチワワが流行すれば皆がチワワを購入し、連れて歩く。飼ったやさきはいいけれど、この先もしかしたら何十年も一緒に生きていくんです。そういったことは考えているのだろうか・・・？と、最近流行り始めてきたプードルを見ながら思います。ペットショップでのガラスケースでの販売・・・今はひたすらそんな販売がなくなる事をどうにかなんとかしたいと思う日々です。
- ・どうすれば不幸な犬・猫がいなくなるのか・・・。日本にもサンフランシスコにあるようなシェルターは作れないのでしょうか？モラルのない飼主（とブリーダー・ペットショップ含む）にはペットを飼えないよう免許制にできないのでしょうか？まだ知る勇気がないのですが、ペットショップで売れ残った動物はどこへ行くのでしょうか？センターから譲渡してもらおうほうが不幸な動物が減るのでしょうか？ペットショップで買って同じなののでしょうか？ただ動物が好きだけの私に何ができるのか、考えさせられるし、知りたいと思います。
- ・1ヶ月前に犬を飼いはじめたのですが、心に響くことが多々ございました。



- ・ 公的なところからの催しとしてこのようなすばらしいことをすることに感心しました。
- ・ 様々な理由で、犬を手放すことになるのですが、ものを買換えるように、簡単に犬を捨ててしまう人は、こういう場所には来ない人だろうなあと気がしました。また実際に犬猫を「処分」していく職員の方々の心痛や苦悩を考えると、消えていく数々の命と同じように、胸が痛みます。色々考えることはありますが、私に何ができるかということを含め、関心を持ち続けたいと思います。
- ・ 保健所の所長さんを含めてのミーティングにしてほしかった。次回の企画に期待します。
- ・ 次に犬を飼う時には、検討したいと思いました。預かり人という存在にも興味を感じました。
- ・ もともと人間の都合で生きている限り、不幸な動物（犬とは限らない）がゼロにはならない。つきつめれば牛肉を食うな、豚肉を食うな、鶏肉を食うな、鯨を捕るな・・・になってしまう。里山の被害、いのしし、鹿の食害問題も同じではないか。
- ・ このようなイベントを是非、私の住んでいる大阪でもしていただきたいと思いました。写真展は勿論のこと、トークショーにつきましてもプロジェクトに携わったナマの声を聞ける機会は大変素晴らしいと思います。
- ・ 視覚に訴える写真がとても良かったです。LUCKY—DOG と UNLUCKY—DOG はショックでした。ただのいぬ、されどいぬ・・・考えさせられるものでした。“可愛がられるような犬に” そのためのシステムを考え直すことが大事かもしれないですね。（ブリーダー、販売者の段階で欧米の取り組みも参考に）、まず知ることから始まるのだ！と思うのでした。